

概要：

○本説明会の主旨等説明

【芦原氏】

- ・新国立競技場計画については、建築家、建築関連団体、市民の方々から色々な主張がなされている。そのような中、今回、専門家である私たちに情報を正しく説明いただける機会を持てたことは大変嬉しいことだと思っている。
- ・この会は、日本スポーツ振興センターと協力いたしまして、非公開という形ではありませんけれども、内容をきっちりと確認し、整理して、何らかの形で公表していきたいと考えております。

○これまでの経緯説明

【河野理事長】

- ・新国立競技場は、2011年2月にラグビーワールドカップ 2019 日本大会成功議員連盟による決議、2011年12月に2020年オリンピック・パラリンピック大会招致に向けた国会議決がなされた事を受け、文部科学省主導でナショナルプロジェクトとして進めてきた。
- ・日本スポーツ振興センターでは、このような動きを背景として、国立競技場将来構想有識者会議を設置し、政府関係者同席のもと、目指すスタジアムの姿について御議論いただいた。その結果、現国立競技場が国際基準に合致しなくなっていることを踏まえ、世界に誇れるスタジアムとするため、改築を目指すこととした。
- ・建設のための具体案を作成するため、建築、スポーツ、文化の各ワーキンググループを設置し、安藤様、小倉様、都倉様に委員長をお願いして、御意見を取りまとめていただいた。その結果、「8万人規模のスタジアム」「臨場感ある観客席」「全天候型のスタジアム」などの具体的な与条件が示された。
- ・与条件を踏まえ、国際デザインコンクールを実施し、2012年11月にザハ・ハディド氏のデザイン案を選定することとした。
- ・昨年7月には、麻生副総理・財務大臣がローザンヌにおけるIOC委員へのテクニカル・プレゼンテーションにおいてデザイン案を映像で示しながら、国立競技場を建設することを述べられ、また、9月のIOC総会のプレゼンテーションにおいて、安倍総理がこのデザイン案を世界に向けて紹介し、高く評価され、招致への一助となった。
- ・その間、政府としても平成25年度予算において基本設計費を措置することが決定され、フレームワーク設計に着手し、昨年11月に「基本設計条件案」としてその

成果を示した。基本設計条件案について、政府部内と調整し、平成25年度補正予算で措置された現競技場の取り壊し経費や実施設計費等を措置することを決定している。

- ・また、今年5月には、基本設計の成果として「基本設計案」を取りまとめ、公表したところであり、政府部内の調整を待って実施設計に着手する予定である。

○有識者会議及びワーキンググループでの検討経緯等説明

【小倉氏】

- ・検討が始まった段階では、2019年のラグビーワールドカップが決まっており、2020年の東京オリンピックのメインスタジアムとして提案するとともに、今後行うであろう国際大会に使えるような競技場を条件として出した。
- ・FIFAワールドカップは2018年以降、開幕戦・決勝戦を行うスタジアムは8万人以上とFIFAの規約で決まっており、要件を満たさないと招致することができないため8万人とした。2018年のロシアでは9万人、2022年のカタールでは86,200人の競技場の計画を出している。2016年オリンピック東京招致の際は仮設を含めて10万人規模で提案している。
- ・また、都内には専用スタジアムを複数設置できるような土地もなく、多目的の活用ができるスタジアムとすると、陸上とサッカーでは臨場感が変わってくるので、サッカーやラグビーの時にはトラックが可動式の椅子で覆われる必要があると考えた。国際ラグビー評議会からも臨場感ある競技場にしてくれという要請もあった。
- ・選手、観客、運営者にとって快適な競技場とするために、開閉式屋根があるスタジアムにしようと考えた。文化イベントの時には、音の問題を解決するためにも開閉式屋根を設置しようということになった。
- ・日本が観光立国として海外から観光客を呼ぶためにも、国際的なスポーツ大会を招致する必要があり、そのためにはホスピタリティに必要な諸室も含めて水準の高い世界に誇れる競技場が必要である。
- ・また、芝生あつての競技場であるので、早い段階から芝生の研究を行い、開閉式屋根で覆われた競技場でも健全に育成できる計画としていく。

【都倉氏】

- ・新スタジアムはスポーツと文化・芸術の拠点をつくる国家プロジェクトとの認識を持っている。1964年東京五輪のメインスタジアムであった国立競技場には、懐かしさと愛着を持っているので、興味を抱き委員を引き受けた。当時の日本と現在

の日本の経済的な立場等全てを鑑みると、国立競技場はオリンピックが終わったらおしまいではなく、将来にわたって維持していく必要があるが、国民の税金だけで維持管理するのではなく、1,700億円近い投資になるので、これを回収できるような計画も必要という基本的な話もあった。

- ・文化・芸術利活用ワーキンググループでは、文化・芸術イベントを本職でやっている全国のプロデューサー、企画会社、テレビ局等の方々にメンバーになってもらい、競技場を使う側の意見を聴取した。大きな問題になるのは、スポーツと文化を共存させることであり、芝生を大切に育成しながら、数万人のイベントをやらなければならないということ、そのためにも全天候型の屋根が必須であるということであった。
- ・ライブエンターテインメントの需要は増加傾向で、2012年には3000万人を超える人が楽しんでいる。それで打ち止めではなく、開催できる会場があれば需要は更に伸びる。文化利用の関係者にヒアリングを行った結果、近隣の騒音問題から屋根があるかどうか最も大きな要望であった。
- ・ただし、屋根があることによって音が包まれるが、残響音が5～8秒とあまり良くないので、普通のコンサートホールのように2秒位にならないか、改善をお願いしたいと考えている。屋根があることで、利用する側からすると季節的な制約がなくなり、天候に左右されない安定的なイベントが開催できるようになる。1年半後のイベントを企画するとき天候で開催が左右されるようリスクはとれない。そのため、イベント会社・プロモーターからは全天候型の新国立競技場への期待は大きい。
- ・完成後赤字の垂れ流しになるのではないかと言われている。下村大臣も予算委員会の中で年間10回程度イベントを招致できるのではないかと発言されたが、その3、4倍の需要はある。むしろ、スポーツイベントとの調整が必要になるくらい、期待は満ちている。
- ・先日来日したポール・マッカートニーも2019年に競技場が完成したら、是非またこの場所でコンサートをやりたいと表明している。
- ・完成すればスポーツ、文化、芸術の拠点となり、日本の財産となるのではないかと考えている。

【安藤氏】

- ・場所、景観、規模、開閉式屋根等の問題点を指摘されているのは認識している。
- ・場所や規模、予算などについては、委員を依頼された時点で前提条件として聞いていたことであり、私もすべての事柄について権限のある責任者ではなく、国民や専

門家の皆様に対して説明する立場にないため、これまで JSC から事業者として説明して頂くよう伝えていた。

- ・私がデザインについて説明をする前に、皆さんの疑問点を直接聞くことが必要。このような機会がこれまでなかったのが問題であったと思っている。国家的事業であることを考慮すれば、本来であれば公開すべきだと考えている。
- ・デザインの選考については、構造や設備、そして管理運営など専門の先生方にも相談して審査して頂き、ザハ・ハジドの案が良いのではないかとということになった。審査についての問題点も指摘されているようだが、限られたスケジュールの中では公平になされたと思っている。その経緯の詳細については JSC が HP 上で公開している。
- ・今回は皆さんが問題に思っていることをどんどん言ってもらいたい。私が答えられる範囲のことは全部話したい。自分たちが考えたことはしっかりと説明したいと思う。

○ 経緯等説明後の補足説明

【芦原氏】

- ・規模の問題、多目的のプログラムと費用に対する懸念、外苑の景観に対する懸念について、まずはしっかりと把握するため、説明いただくようにしていただきたい。問題については、既にそれぞれの建築団体から要望書や提案書という形で何度も提出しているので、私たちが感じている問題点を既に御理解いただいているものと考えている。計画について説明いただいた後に、時間がある限り問題点についても話し合いを行いたい。

【安藤氏】

- ・審査委員会が関与し、説明できる範囲とできない範囲がある。デザインについては我々がコンペの最優秀案として選んだものであるが、その後の基本設計の経緯には関与していない。

【河野理事長】

- ・場所と 8 万人規模、全天候型、可動席という前提は我々も条件として認識しているので、指摘をいただいているが、そこまで戻る意見には我々としては答えられない。前提条件について、御意見があるのは踏まえた上で我々が政府と話し合いをした結果としてやる必要があると判断して進めている。

【安藤氏】

- ・当デザインを選んだ経緯について説明させて頂きたい。2020年に向けて心が一つになるような、祝祭性のあるデザインをテーマに掲げ、審査委員会の総意として選んだ。
- ・コンペ案の段階では敷地をはみ出すなどの問題点もあったが、基本設計の過程で調整できる範囲のものと考えた。選考にあたっては50年、100年先を見据え、この場所にあって良かったと思えるような、誇りの持てるデザインであるかどうかを重視した。
- ・審査では、スケジュールの都合がつかずどうしても参加できなかったノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースを職員が訪問し、一日かけて内容を説明した。その上で審査して頂き、評価を頂いた。最終案決定の際に私が電話で直接経緯を説明した上で判断を仰ぎ、同意を確認した。彼らも適正に審査に参加している。
- ・世界に向けて日本の技術を誇れるものという意味では、あのデザインで良かったと思っている。景観の問題についても、要求される容積の中で、建物外周部の高さを抑えた流線型のデザインは、比較的威圧感を低減するのではないかと考えた。
- ・構造的には大きな挑戦となるが、和田先生にも見て頂き、十分実現可能だのご判断を頂いた。
- ・当初想定されたコストを基本設計で見直し、現在も調整中であるが、建築資材等の単価は現在上昇傾向であり、ある程度のコスト増はやむを得ないのではないかと考えている。
- ・景観についても、場所については国が決めたことであるが、実際に関わるのは市民であり、その要望に対し配慮すべきことはしっかりと対応すべきだと思う。ただ、今回の競技場に求められる条件を前提とした場合、仮設でつくるという計画は当初から想定されていなかった。
- ・ほかにも新国立競技場の計画について様々な意見が寄せられているが、腹を割って話し合うことが大事であり、事業者であるJSCはしっかりと受け止め、対応できることは対応しつつ、今後も情報発信をしていって欲しい。

○基本設計（案）説明

【山崎新国立競技場設置本部長】

- ・大規模な競技大会の開催が実現できるスタジアム、観客の誰もが安心して楽しめるスタジアム、年間を通してにぎわいのあるスタジアム、人と環境にやさしいスタジ

アムの4つをコンセプトにして進めてきた。

- ・ 現在、基本設計（案）は政府部内で調整中であるので、調整が整い次第、収支計画も含めて公表する予定。
- ・ 収容人数フットボールモードで8万人、陸上モードで7万3千人となっている。観客席は3層構造となっており、一般席、プレミアム席などの配置を示している。
- ・ フットボールや陸上それぞれに対応できる可動席を計画している。
- ・ 芝生の育成を考慮して南側の屋根に透明な材料を使う予定である。透過率70%だと冬至では33.7%の日射量比になる。その他、通風にも配慮し、地中温度制御システム等の利用により、芝生を健全に育成していこうと考えている。芝生については今後も研究開発をする予定である。
- ・ 駐車場は、基本設計条件では、大規模国際大会を想定して作成していたが、基本設計では、通常時の利用を想定して台数を設定している。
- ・ 避難の際には15分以内に退館できることをシミュレーションで確認している。敷地が狭いため、1階をピロティにする等工夫をしており、イベント時に観客は最短40分で退館できることをシミュレーションで確認している。緊急時には敷地内に人がとどまることができるスペースを確保しており、安全に避難できると考えている。
- ・ トイレは関係基準を参考にしながら確保する計画としている。車椅子や聴覚障害者等にも対応できるユニバーサル計画を考えている。
- ・ ランドスケープ計画は、このように計画を作っているが、住民等の御意見をお聞きしながら、環境に配慮した計画としていこうと考えている。
- ・ 景観についても、主要な地点からのモニタージュを作成してシミュレーションを行った。断面のイメージ図が誤っていたので修正している。
- ・ 開閉式の遮音装置を設置して、現国立競技場と比較すると新国立競技場の計画では15～20dB低減することができ、近隣への騒音を防ぐように計画している。室内音響についても、5～8秒の残響時間となっているが、実施設計の段階で改善出来るよう検討を行う。
- ・ 可動式スタンドは、観客席の前方部分が伸縮することによって、陸上・フットボールそれぞれにも対応できるようにしている。文化イベントの際には、収納できるように考えている。
- ・ 開閉式遮音装置は折りたたみの膜構造を考えており、G種膜の使用を考えている。風荷重は管理風速として平均風速17m/sを設定しており、電車が止まる瞬間風速では25m/sに相当する。積雪荷重は、管理用の積雪深は30cmとし、融雪装置の

採用を考えている。

- ・ 免震構造を採用することによって、躯体の数量を抑えコストを抑えている。
- ・ 照明設備は競技規定を満たすように計画している。大型映像装置は南北に2面。
- ・ 空気調和設備は、間接気化冷却空調機とし、蓄熱槽の活用を考えている。
- ・ 概算工事費は、政府部内の調整を経て、本体は1,388億円、周辺整備237億円として基本設計を終えている。
- ・ フレームワーク設計では高さを75mとしていたが、基本設計では5m高さを抑えて70mで計画している。
- ・ 地下2階は、選手の諸室や管理諸室を配置しており、リングロードで車は周回できる計画としている。地下1階はVIPの車寄せとトイレを配置している。1階では、西側と南側をデッキでつなぎ、バリアフリーで駅からの動線を確保している。2階VIPのラウンジ等が配置されている。3階はボックスシートを配置し、年間販売することによって、競技場の収入を支える計画としている。4階から上は一般の観客のコンコースとなっている。断面として観客席は3層構成を取っている。完成後のイメージとしてパースを作成している。

○デザインコンクールから現在までの検討経緯説明（スライド使用）

【ジム・ヘブリン氏】

- ・ 現在の計画は、コンペからの基本的な考え方、アイディア、デザインは踏襲されていると考えている。基本設計のプロセスは、構造、安全性等の条件の下、デザインを発展させていった結果であると考えている。
- ・ 都市の中央にスタジアムを配置することは正しい選択であったと思う。最近のオリンピックのスタジアムは郊外型が多いが、中心にあるということは、都市を活性化させるという面でも良いと考えている。安全性、交通の便という面で有利である。
- ・ アテネのオリンピックスタジアムは都心から遠くに作ったが、レガシーの事を考えていなかったのも、そういう意味では成功しなかったと思う。都心のスタジアムの良い例としてあげられる東京ドームも古い公園の横にある。
- ・ マンチェスターの例でも、都市の中央にスタジアムが配置されている。小さいコミュニティの中にスタジアムが入り込んでいるので、スタジアムの全景を見ることは出来ないが、コミュニティの中に溶け込んでいる。
- ・ コンペからは小さくなったが、新しいスタジアムの投影面積は既存のスタジアムより大きくなり、位置も動かしている。北京や新国立競技場ではサドル型のスタンド

の形状となっているが、ロンドンのスタジアムは頂部が平らなスタジアムになっている。新しいスタジアムというのは古いスタジアムよりも大きくなるのが普通であり、ウェンブリーでも同様であった。新しいスタジアムに求められる条件を考慮していくとどうしても大きくならざるを得ないが、新しいビジネスプランを実現できるようにする。

- ・コンペの時の断面と今の断面を比較した。ロンドンのオリンピックスタジアムと比較するとロンドンの断面の方が小さいが、ほぼ同じ断面をしている。ロンドンのスタジアムはレガシーのことを考えないで計画が進んだので、今とても莫大なお金を使ってレガシーのための準備をしている。私たちは最初からレガシーのことを考えた計画をしている。

○ 建築関連団体との意見交換（建築関連団体：◇、JSC等：□）

◇総工事費や維持管理費についてはどのような検討を行ってきたのか。

□デザインコンクールでは、日産スタジアム等の類似施設を参考に1,300億円の目安額を設定した。その後、建設物価の上昇、オリンピック対応や各ワーキンググループからの要望を全て盛り込むと大幅に超えるものになってしまうので、専門家の御意見を踏まえながら、デザインをコンパクト化した。政府部内との調整を踏まえて、本体工事費1,388億円、周辺整備237億円となっている。その間、自民党の無駄撲滅プロジェクトチームや財務省との協議を経て今に至っている。基本設計もこの条件で収まっている。ただし、建設物価上昇分は昨年までのもので、消費税は5%を前提としている。

□新国立競技場は立地もよいので、多目的スタジアムとして収入を上げて、国民の税金になるべく頼らないような計画にした方がよいのではないかと考え、維持費についてはフレームワーク設計の時に試算したが、第三者にも評価してもらい、収入が50.4億円、支出が46億円と見込んでいる。収支計画については、基本設計に基づき試算しており、現在政府部内と調整次第、公表したいと考えている。

◇維持管理費というのはどのような費用を含んでいるのか。

□46億円には建物を維持・管理していくための点検・保守費、人件費、光熱水費、修繕費等の費用全てを含んでいる。

◇改修ではできないのか。

□現在の国立競技場に手を加えても、国際基準を満たすものにならないという認識の

下でスタートしている。基本的には建て替えないと無理だと考えている。8万人規模等の与条件を踏まえると改築しかないと考えている。

◇改修案について検討した結果を示してもらえないか。

□今の8万人規模というのは国際スポーツ団体の基準であり、これは我々では変えられる立場にはない。

◇情報を公開していくべきと考えているがどうか。

□情報をできるだけオープンにしていくことは同意見であり、できる範囲内のことはやっぴいこうというスタンスである。情報については、政府の了解が必要なこともあるので、我々だけの判断ではできない部分もあることは御承知願いたい。

□情報をHP等に公開しても、反対意見を出す人が見ていない場合もある。

◇解体工事の着手を遅らせることはできないか。

□検討をスタートしたのは昨年9月よりずっと前であり、その時点でスタートしないと2019年3月の完成に間に合わない。

◇今後の詳しいスケジュールを教えてください。

□2019年3月に完成させる予定であり、建築工事に42ヶ月かかる。来年の10月には着工しなければならない。解体には15か月かかるので速やかに着手する必要がある。詳しいスケジュールは別途資料を提出する。

□ナショナルプロジェクトで不満があると言うが、国立競技場の改築に反対する方々の意見の要点は何か。

◇神宮外苑の環境の中に70m程度の建物は大きすぎるのではないか、景観上影響はないのかという心配があったが、シミュレーションを見て、大きすぎるのかどうか検証してわかっていただくことが第一歩と考えている。次に、素晴らしい競技場を作るといふ思いはわかるが、一部の人からは今この時代に建設費や維持費が大きくなることに懸念を持っている方がいる。そういう人に、具体的にどれだけの費用がかかり、どういうことができるのか、国民にとってどの程度の役割を果たすのかについて、しっかりコミュニケーションが取れていないと考えており、専門家としても、問題点を整理して、都民・国民にわかりやすく公表していくことも重要と考えている。

◇本日は、説明を聞く場として参加しており、専門家としての議論は控えた。今日の説明をもとに質問書として整理して提出させていただき、そのうえで専門家だけでなく市民団体などを交えた議論の場を公開で設けていただきたい。専門家だけの問題でなく、国民の議論になってもよいと考える。

○閉会の挨拶

【芦原氏】

- ・本日はご説明いただきありがとうございました。様々な角度から説明を聞かせていただき、正しく認識し、判断していくためにも、今後とも意見交換する場を設け、できるだけ公開して、活かしていくことが大事である。
- ・今後の対応については、日本スポーツ振興センターと日本建築家協会等の建築関連団体で協議して、よい方向へ持っていけるようにしたいと考えている。